

遊ぶとひまふしと仕事

— その区別とまじり合いをさぐえる —

遊ぶってなんだー

遊ぶ、という特集テーマはきまつたものの、考えてみるとこんなムズカシイことはいままでの特集にはなかった。

特集千成ホテルの大火、特集めし、特集バニク、特集酒などは、みんな単体的だったから、範囲がきちんときまり、こいた。しかし、遊ぶとなるとどうはいかない。

ムズカシイのは遊ぶの種類が多くて、めいめいにちがう、ということでもあるけれど、それがムズカシイの根本ではなくて、一体、遊ぶって何だーと考えてしまうとどこにも

このムズカシイがある。

ひまつぶしってなんだー

それで特集のテーマをひまつぶしに変更したら、という案も出てきた。そうするかと思えば、たのも事案だ。だが、これならやさしいかとなると、決してそうではない。

ひまつぶしという、そのひまとは何か。ひまというのはタイクツな時間のことだとすれば、タイクツでない時間があつたところにあるかどうか。しゅ、ちゅうタイヘツしてるのではないか。なんてことが頭が浮かんてくる。

ある野丁場の思い出

以前、ある野丁場にはたわいていた時のことを思い出す。

そこは大工事で、事務所には総主任という一番工ライヒトがいるほか、工事のそれぞれの節目に何人もの主任がいた。飯場も土工ばかりでなく、大工の飯場、左官の飯場、電気の飯場、カジヤの飯場という具合にたくさんあった。風呂はちよつとした銭湯ぐらいの大ささのが、タイルなんか貼ってないコンクリートむき出しだけど男湯と女湯が作ってあり、ボイラー室がしきしていた。

おれはそこの土工で、下が食堂、炊事場、おやじ夫婦と子供二人の住い、事務所、二階が大部屋で四十人ぐらい寝ている飯場に入っていた。手酌師について行かれたのだ。

仕事はそんなにしんどくなかったし、メシもいれ方だったけれど、何しろぎやかな市街までは一里近くもあり、帰りのバスは早く

なく、こしきょうの、マキへ出かけてもバニクもゆっくりやっていられたかった。

それで、仕事から帰って、メシ、フロがすんでしまつて、テレビを見るか、将棋をさすか、花札をやるか、ただバチャバチャとしゃべってるか、雑談でも聞かしかひまつぶしの方手がなかった。つまり、寝るまでの時間はタイクツだ、E。けれども、ならばタイクツしながら眠くなるのを待つよりは、残業してカゼイで、体を疲弊させて、帰ってきてもメシ、フロ、ゲウーで眠ってしまつては皆がさんだかという、そうではなかった。残業はいくらでもやれたのだが、ゼツタイの命令以外は、皆やらなかった。そして飯場でさうでろした。

雨が降れば仕事は休む、マキへ出て行くには時間はたっぷりになるのだが、ここの思うほどカネも借りられないし、ホーたいていの者がカネなれる、バス停まで歩いたら、そこでバスを待つ、たりするのには困るから、や

つぱりさうさうして、しまいは二階で
ズモウをこつたりして、下のおやじから囁
られるのだ、た。そしてタイクツやのうと
言い合うのだが、朝、早く目をさました者が
、雨、雨や、雨やと一言いうと皆す
ぐ起きた。ふだんはながひか起きない者まで
早く起きて、雨降りをよろこんだ。

水害に出会った時に――

そういう飯場が水害にあった、
台風だ、とにかく集中豪雨だ、たか、原因は忘
れたけれど、炊事場食堂はもちろん、おやじ
たちの部屋にも水がつかうようなさけぎで、も
ちろん大工や左官の飯場も、元請事務所も水
がたしになった。
工事現場の方へぐ、と高いから大丈夫なの
だが、その現場と、飯場や事務所のある低い
区域との間に川があり、その川はバス停近く
の大きな川へ一級河川に通じていて、大き
な川が増水したからあふれだしたのだ。

仕事もひまつぶし？――

こういう状態だ、おれたちが考えついたひ
まつぶしは何であつたか。
――仕事はなにか、仕事をさでろ、だった。
ところが、道路が水でたしなので、生コン
車もトラックも入ってこられない。給食やの
小型車が仮橋の工をやつと渡つてくるありさ
まなのだ。それから道具がない。道具小屋は
流されてしまつたのだ。とうにもならない。
おれたちは現場の中の川と、バス停の近くの
大きな川の川が一つになつて、一面が泥色の
水になつて、見る景色を眺めるばかりだった。
雨が小降りになつても、山崩れに降つた時
が来れてくるから、水が引くには日数がかか
るだろうという、

「仕事してる方がよ、ほどマシやなあ」
「おんまになあ、せこいでもこのタイク
ツはかなけん」
「いや、タダでもエエから仕事したいわ」

大それたことだ、た。

工事現場へある大工場の新築へのヒナン
命令が出て、すでに屋根を張つてある一角に
全員が集つた。家族持ちの取人もずいぶんい
たから、女コドモまじりだ。

めしは元請が給食やにたのんで出してく小
ヒナンしている間は全部に常用貸金を払うこ
とになった。つまり、何もしなさいでもメ
シが食えてぐにももらえろということだ。

雨はやまず、水はひかない。

夏だから寝るのに寒くはなかつたが、三日
めぐらひももう皆のタイクツが糊塗になつた。
テレビ、将棋、花札、雑談――何もなしで、
ただめしを食つて雨を眺めるだけだから、
タイクツもむしものだ。あふれ出る川で魚
をとつてけりするけれど長つづきはしない。
オー、ふみ外して川へ落ちたら死んでしまう
おそれもある、ひまつぶしの方法がないのだ。

おれたちは、同じことを何人も言ひ合つ
た。それは、大工、左官その他、あらゆる職
人も同じだった。

似てること、ちがうこと――

この時、おれたちが仕事をしたいなと思つ
たのは、工期のおく川を心配したからではな
い。この大工場を早く作らなくては、日本経
済にマイナスになると心配したのである。
ただただ、自分のタイクツにあきあきして、
ひまつぶしの方法がほしかつたのだ。そして
ひまつぶしの方へ遊ぶ道具が何にもない
から、仕事というひまつぶしを考えたのだ。
遊ぶとヒマがふしは、ピッタリ同じことさ
はないと思う。しかし似たようなことだろう
も、と別のたとえをすれば、仕事は収入へ
賃金とくつたことなのに対して、遊ぶ
ひまつぶしは支出とくつたことなのという
ことだ。パチンコやギャンブルはもうかるな
んぞ、まぜ、かえしてはいけぬ。おれは、

産によくある例だ。

事故を避けて免許停止に陥った運転手や、
ギャンブルのやりすぎで道場一帯を質に入れた大工やアニコに陥っている。

要するにほんの一瞬しのぎの足だ。

こんな時、その運転手や大工がスコップを使
いながら思っていることは、オレのホンマの仕事はアニコやないぞ、ということだ。そんな
状態の者と現場をいっしょに居て、そので
リフを聞かされたおぼえがある。

まあ、それはそれでわかる。納得する。

しかしそれならば、釜にいてへ山谷でも奔
走でもその他のモノアニコして、アニコ
の仕事はアニコだ、とさ、ぼり言える者が
どのくらいいるだろうか。

大抵、生まれながらのアニコはいない。

それならどうしてアニコにな、たかとい
と、出稼ぐすい、ギャンブルの罠で、刑務所
がえり、天変や家庭不和からの脱出、つとめ
先の倒産やクビ切り、好奇心、革命戦争のオ

ルが、その他ある理由がある。

そして、ほとんどの全部の者が、いまこそア
ニコしてると本音のおれは、と思、てい
る。つまり、釜ヶ崎をくらすように、た時
から「脱釜ヶ崎」を考えている。

免許停止の運転手や、道具を質に入れた大
工が、アニコは自分の飯りの事と思、てるの
と同じことなのだ。ただ、現実には、運転手
や大工の場合は「脱釜」がめんどくさい、家
出人は探してあてられれば大いに関心する、
普通一般には、釜ヶ崎に長く居ればなるほ
ど、だんだん腹が膨れ出し、住み直してくると、
歌の文句にある通り、住み直してくると、
アニコは天国釜ヶ崎への気分にな、てくる、
アニコとはどう思わない者も、思、てるように
居直るしか仕方がなくなる。

だが、そうなら、こそまだ、釜は飯りのネグ
ラ、アニコは飯りの事というふうに思うのサ
腰の底の底のホンマなのだ。

というわけ、アニコという仕事は、食う

うための仕事ではある、でも自分のホンマの工
事だとは思わない。では、ホンマの仕事とは
一体何なのか？

おしまいのメモー

ここに書き残してきた、案にもうシンド
クだった。

考えていることはまだまだある、で、それ
を叩き、押し風に並べてみると、次の
ようになる。

○

釜は飯りのネグラ、アニコは飯りの事
——と思、ているうち、釜ぐらしの年
齢が重なる、アニコの方は幼いよう
になり、飯りの方だけかど、しり落ち
ついでしまう。

、そうなら、てくると、釜ぐらひまつぶし
と仕事はだんだん区別がつけにくくな
る。

、なぜかといえば、ホンマの方々に

「た飯の生き方というやつは、それ全
体が釜ぐらひまつぶしのようなものだ
からだ、生きることはタイクツな時分を
過すことだ。」

、しかし、生きてる全体が釜ぐらひまつ
ぶしにな、てしま、た場合でも、食う
ための仕事は残る。ただ考へ方次第で
は、食うための仕事も釜ぐらひまつ
ぶしの一種類と想うことはできるだ
ろう。

、いままで書いてきたことは若い人には
通用しないところが大部分あるはずだが、
自分を中年と思、てる人から上の年令
の人には通じると想う。まだ一語に考
えてみることもしたい。

へん